



石室

石室



狂歌百人一首全



香堂

天智天皇

御田のうらみし巻の  
歌のうらみし巻の  
雪の降る



持戒

いふ洗濯  
くさくさ  
おかし

村人乞

۱۰۰  
 ۱۰۱  
 ۱۰۲

しほまへ  
白ふくしの御蔭に  
あむしのうきうき  
まゐらう

ねえさ  
うきうき  
うきうき  
うきうき  
うきうき





中納言時

其のうへに  
うへに橋の白く  
夜が更けり

安住仲磨

仲磨いへ  
運来  
いへ



青羅浮山

わづらふ都の石に  
ふもつ申すはま  
子世宣うけ

小野小町

衣敷の流るる  
甘き水

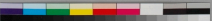


蛸を

おのゝゝゝゝゝゝゝ  
もゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝ

参り候上

ゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝ

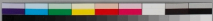


陽明 卷之四

陽明先生全集卷之四  
陽明先生全集卷之四  
陽明先生全集卷之四

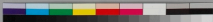
陽明 卷之四

陽明先生全集卷之四  
陽明先生全集卷之四  
陽明先生全集卷之四



何事んか  
清き水  
けしき  
あはれ

光孝  
孝子  
孝子  
孝子



中絶き行ず  
りまゝ振ふも  
うしろ彩りけ  
今やわらん

右馬堂は朝夫  
ノ早振神代も  
漸趣向も  
くも右上手將





بسم الله الرحمن الرحيم  
الحمد لله الذي هدانا لهذا  
الذي كنا لنهتدي لہ  
ولا ندرک

بسم الله الرحمن الرحيم  
الحمد لله الذي هدانا لهذا  
الذي كنا لنهتدي لہ  
ولا ندرک

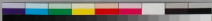


文庫原書

會つゝあつたのち油の  
ちぢみあつたちぢみ粥と  
ちぢみ

大正十一年

夕べに  
ちぢみ粥と  
ちぢみ



漢家

ふくむをいふ  
手あつていふ  
さういふ

三修ふ

と修ふ  
あつていふ  
さういふ



真言宗

小舎

御

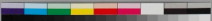
御

真言宗

小舎

御

御



酒をうけ朝市

の酒をうけ朝市

の酒をうけ朝市

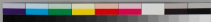
の酒をうけ朝市

江戸内船組

の酒をうけ朝市

の酒をうけ朝市

の酒をうけ朝市



すまみち  
右のふみ  
つしむ  
おふみ

是期

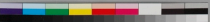
是期  
朝のふみ  
ふみ



陳國朝  
曾子之來也  
其心之憂也  
其心之憂也

紀五則

2. 記  
其心之憂也  
其心之憂也



藤巻曲風

誰とて仲人  
鳥辺の春  
うきうき人

新書

人  
うきうき  
うきうき  
うきうき

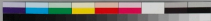


清色深春人

是のうしろにうしろのうしろ  
うしろのうしろはうしろのうしろ  
うしろのうしろ

文彦朝康

うしろのうしろのうしろのうしろ  
うしろのうしろのうしろのうしろ  
うしろのうしろのうしろのうしろ



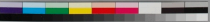


الحمد لله

الحمد لله الذي  
خلقنا من  
الطين والطين  
والطين

الحمد لله

الحمد لله الذي  
خلقنا من  
الطين والطين  
والطين



الحمد لله رب العالمين

والصلاة والسلام على من لا نبي بعده

وبعد فإني أفتيكم

بأنه لا بأس

بأن تأكلوا

من ثمرات الجنة

فإنها من ثمرات الجنة

والله أعلم



清恵之婦

清恵之婦  
御前様へお歌の  
本

中納言殿

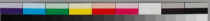
中納言殿  
御前様へお歌の  
本



中朝の朝王  
人々を  
人々を  
人々を

護徳

初  
人々を  
人々を  
人々を

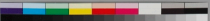


曾ねの志

由. *wasuwa* 井人  
*wasuwa* *wasuwa* *wasuwa*  
塙 *wasuwa* の *wasuwa*

曾ねの志

*wasuwa* *wasuwa* *wasuwa*  
*wasuwa* *wasuwa* *wasuwa*  
*wasuwa* *wasuwa* *wasuwa*



酒

花

花

花

大

花

花

花



Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, enclosed in a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, enclosed in a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style.



藤吉通し信  
明かきしる  
少きしる  
朝の早時

石大の通欄  
時きしる  
少きしる  
いふ

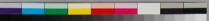






مَدَامُ  
مَدَامُ  
مَدَامُ  
مَدَامُ

مَدَامُ  
مَدَامُ  
مَدَامُ  
مَدَامُ

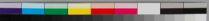


大貳 12

有 # 大貳 12  
大貳 12  
大貳 12

大貳 12

大貳 12  
大貳 12  
大貳 12



小式部内侍

大江山の野に

さくら花の

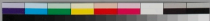
うきを

伊勢の

うきを

八重の

うきを



清少

一、  
 二、  
 三、

五言古詩

۱۰۰  
 ۱۰۱  
 ۱۰۲

松中納言定頼  
朝がけのふりかへ  
定頼のふりかへ  
ふりかへ

相模

うしろのふりかへ  
ふりかへ  
ふりかへ



赤木博正行る

眼は耳の音もの

うらやまがけりたけり

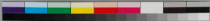
うらやま

周防内侍

うらやまがけりたけり

うらやまがけりたけり

うらやまがけりたけり

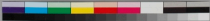


三 修 行

まゝに  
まゝに  
まゝに  
まゝに  
まゝに

解 同 法 師

まゝに  
まゝに  
まゝに  
まゝに  
まゝに





天竺の僧  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう

天竺の僧  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう  
てんぢくのかう



祐内親王御  
赤飯とらふりし人  
身ふくふく油の  
のりしきし

赤中納言  
島がむきし  
しきし  
しきし



原合類編

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四



天竺國名  
摩訶訶  
摩訶訶  
摩訶訶  
摩訶訶

孝德尼

摩訶訶  
摩訶訶  
摩訶訶  
摩訶訶



源 五白

清風明月夜  
流水落花春  
不歸處  
空山深處  
有人家

右白雲寺題詩

清風明月夜

流水落花春

不歸處  
空山深處  
有人家



行軍の陣地  
ニ  
此の陣地  
ニ  
此の陣地

往還大正五年  
此の陣地  
此の陣地  
石明の陣



通國は作  
おしはるゝ命  
あはるゝ命  
うゑるゝ命

皇太子は作  
おしはるゝ命  
あはるゝ命  
うゑるゝ命







西行法師

竹久のちりしめ

張雷が月の影を

とくくくく

雲蓮法師

とくくくくく

とくくくくく

とくくくく



白きも明けくち  
あまはくちのふ  
こころにまをけ  
くちのふ

あまのふ  
あまのふ  
あまのふ  
あまのふ



穀ふつふと轉

あゝまわね伊い海草

油のまゝ穀ふつ

多きつゝ

後身極好穀ふつ

谷ふつ

こゝろは穀ふつ

穀ふつ



二時元彦の  
うしろ袖の極ふくさうし  
くちよゝの人しーね  
うしろきうち

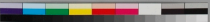
鎌倉の  
けふふふふふふふ  
諸ふふふふふふの  
舟人ふふふ





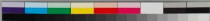
通事ちび  
九つちびの庭  
雪ふりし  
うの金玉

梅中納言  
建ちし  
うの  
浦の夕



卷之四  
四  
四  
四  
四

卷之四  
四  
四  
四  
四



頂德院  
百々法華のん  
おーまーまーまー  
おーまーまー

常々宝

江世

○相教うまの門北中

○今三十一、杉山、市幸狂言

大徳寺八月  
り有難い御慶町北  
柏倉屋、市幸、衛

